



静脩

1983年10月

The Kyoto University Library Bulletin

Vol. 20, No. 1

新 営 図 書 館 に 望 む

教養部教授 上 横 手 雅 敬

いよいよ10月末には新図書館が竣工し、来年4月には開館の運びになるという。目録・閲覧貸付・書庫などが学内各所に散在していた不便な状態が解消するだけでなく、種々の新設備を具えた新図書館が始動するのはよろこばしいことであり、そのすぐれた機能に寄せる期待は大きい。開館を前に、新営図書館の運営について、若干の希望などを申し述べたい。

昭和25年に京都大学に入学して以来、旧図書館には大いに親しみ、多くの恩恵を蒙ってきた。全学総合目録などで検索し、自分で書庫に入って書物を持ち出し、閲覧貸付掛で借用手続を済ませ、研究室や自宅で読むというのが、私の図書館利用法であった。新図書館では、このすべての部分、目録も書庫も貸付も、従来とは面目を一新する。入学以来34年目に訪れた図書館新営は、ささやかな私の研究生生活にも重大な影響を及ぼしそうである。別に私事を大袈裟に言っているのではない。私のような形で図書館を利用されている方は少ないし、また目録・書庫・貸付などは、図書館のもっとも基本的な部分なのだから、ごく狭い経験から来る私の感慨にも公共性がないとは思わない

のである。

しかし商議会のメンバーとして、種々の会議に参加している中に、痛切に感じたのは、図書館の利用法が極めて多様だということであった。大きくいって文科系と理科系とはまったく違っているし、図書館に対して抱く期待やイメージは、人ごとに様ではないのである。出席した会議でとりあげられた話題のかなりの部分が、私には不十分にしか理解できなかったのは、図書館機能の多様性によるのである。図書館は私たちが考えてきたように決して本を借りて読むだけのところではなかったし、本を借りて読む仕方にしても様々なのである。

一例として図書貸出の期間、冊数だけを取りあげても、2年・300冊を限度とする学部もあれば、1週間・3冊以内とする学部もある。これらの規則の違いは、それぞれの学問のあり方から来ていることは疑いないが、附属図書館の方は、1週間から2年、3冊から300冊におよぶ全学のバラエティの中で、何か一つの規則を作らねばならないのである。多様な要求に応じて、多様に対応しなければならないのだから、私にわかりにく

い部分があるのも当然であろう。また多様な要求に対応することは、どの要求にも不十分にしか対応できない結果を生ずる恐れも少なくないのである。

新図書館に設けられる諸施設も、多様な要求に応えてのものであろう。しかし新施設は結構だが、目録・書庫・出納などの基本的部分が、どの程度改善されているのかといえ、開館された上で利用して見なければ何ともいえないように思う。例えば収蔵量の増大のため集密書庫を用いる必要はよくわかるが、それによって図書の検索がやや不便になるといった程度のことは、やはり甘受しなければならないようである。

多様な要求に応えることはむづかしい。ただ1週間から2年までの平均値や最頻値を出すだけで解決したなどとは考えてほしくない。数や統計の安直な利用には心しなければならない。

新図書館の利用には、事前に十分な準備がなされており、関係者の御努力は多ししなければならない。しかし、どれほど周到に準備が行なわれても、所詮新図書館は管理・運営にあたる側でも、利用者の側でもはじめての経験であり、思いもよ

らぬ不備・不便が生ずることは当然予想される。それはやむを得ないことであるが、その場合、不備をすみやかに改善する柔軟さを求めたい。大学のような大きな組織では、成文化された規程だけでなく、慣行すら容易に改められない傾向がしばしば見られる。新図書館の場合、前例や慣行は存在しないのであり、試行錯誤を重ねてそれらを作っていくのだという姿勢が必要であろう。

最後に図書館がどんなにすぐれた施設を持っても、それが周知させられ、利用の仕方が平易に指示されなければ宝の持ち腐れである。ブックディテクション・システムだのA.V.ブースだの始めて耳にする人も少なくなろう。機械に弱いのに、年をとってから機械につき合わされる身をかこつ文科系中高年教員の一人として、新施設利用法の平明な解説を望みたい。

未知のものへは期待とともに不安も大きい。開館とともに不安が氷解すればまことにありがた。旧図書館のもってきた牧歌的な人間臭さへの愛着はなお捨てがたいが、所詮それらは失われていくものであろう。ただ機械では扱いきれない部分に、血の通った運営を希望する。

—— 資料紹介 —— ①

外国図書(大型コレクション)について

昭和57年度外国図書(大型コレクション)購入費により下記の資料を購入し、附属図書館に蔵置しておりますので御利用下さいませよう御案内いたします。

なお、この資料について経済学部平井俊彦先生に詳しい解説を執筆していただきましたので、御利用の手引きとして紹介いたします。

ゴールドスミス=クレス文庫 —経済関係初期文献集—

経済学部教授 平 井 俊 彦

昭和57年度に、ゴールドスミス=クレス 経済学文庫 Goldsmith's=Kress Library of Economic Literature のうち第1部, Segment I (15世紀から1800年までに出版された文献)のマイクロ・フィルムが、本学中央図書館に所蔵されることとな

った。第1部に収録された文献点数は、補遺4,000点を含めて約31,000点にのぼる。リール数にして2,028。ちなみに第2部 Segment II (1801-50年に出版された文献) 約29,000点で、1,700リールにのぼる、当該文献に関する世界で最大規模の文